

ありがとう 20年地域と共に新たな未来へ

JAみやぎ登米「自己改革」の取り組み

創造的自己改革への挑戦

○持続可能な農業の実現と豊かで暮らしやすい地域社会の実現

登米耕土の自然・環境・農地を基盤として、多様な地域農業の持続的な発展に寄与し、「人と人」「地域と地域」のつながりを大切にする心豊かな地域社会を築くための改革の取り組みを進めてまいります。

○経営改革の確実な実践

「総合事業としての経営基盤の確立」「組合員や地域に必要とされる組織」を目指し、スマート&コンパクトをコンセプトに進めてまいります。

【平成30年度重点実施事項】



その① 営農経済事業改革の実践による「農業者の所得増大」

組合員の営農類型・経営形態に応じた経営支援・経営相談体制を強化するとともに、新たな発想や創意工夫による農畜産物の有利販売と生産資材の有利調達による生産コスト低減等の諸対策に取り組んでまいります。

その② 新たな米政策への対応と「農業生産の拡大」

新たな米政策への対応として、環境保全米の生産を基本に、大豆、麦、飼料作物、園芸作物、輸出用米、飼料用米等を組み合わせた水田フル活用を推進するとともに、生産拡大を目指す農作物を奨励しながら、産地化とブランド化となる作物づくりに取り組んでまいります。

その③ 暮らしの活動の実践を通じた「地域の活性化」

「暮らしの活動」等の実践により収集した組合員の声を事業運営に反映するとともに、組合員の加入促進運動を展開し、組合員の参加・参画による豊かで暮らしやすい地域社会の実現と地域の活性化に取り組んでまいります。

その④ 総合事業体として信頼される「健全経営の実践」

総合事業体としての財務基盤を強化し、機動性の高い組織体制の構築により効率的かつ効果的な事業運営を行うとともに、公認会計士監査移行に伴う対応準備と財務報告に係る内部統制整備の充実強化に取り組んでまいります。

その①「農業者の所得増大」



生産資材の有利調達と予約購買の推進

・生産資材の有利調達

- 市場価格調査を行いながら使用量・使用頻度の高い肥料と農薬を中心に取引メーカーとの交渉を行い価格の見直しに適宜取り組んでいます。
(平成29年8月より、肥料2品目及び農薬334品目について値下げしました。)

・奨励対策の実施

- 肥料・農薬の大口奨励対策(3~6%の奨励対策)に取り組んでいます。
- 環境保全米Cタイプ専用肥料の自己取り奨励対策(1袋60円)に取り組んでいます。(平成30年産肥料の自己取りの利用率は、全体の約3割となっております。)

営農類型・経営形態に応じた経営支援・相談体制の強化

・担い手支援センターの設置

- 担い手経営体(大規模農家・法人・集落営農組織)及び中核的担い手経営体約1,500戸への個別対応を強化します。
- 地域営農ビジョンづくり運動の企画立案とビジョン策定の支援を行います。

・農業金融センターの設置

- 専門的で高度な農業金融サービスを提供し、組合員・利用者の利便性向上を図ります。

・専任渉外担当者による個別訪問

- 専任の渉外担当者(DASH(ダッシュ)・農業金融渉外・しきんアドバイザー・LA(ライフアドバイザー)・のうきアドバイザー・くるまアドバイザー)を配置し、出向く体制による情報提供と個別の相談および提案体制を強化します。

※DASH(ダッシュ)とは

D…Dream 理想 A…Agriculturer 農業

S…Support 支援 H…Humanrelation…人間関係・信頼関係の頭文字を取った愛称



担い手支援センター開所

新たな発想や創意工夫による農産物の有利販売

・ブランド戦略推進会議の機能強化

- ブランド戦略推進マネージャー(専任担当者)を配置し、マーケティングを強化しながら農産物の有利販売に努めます。

・コメの買取販売の取り組み

- 環境保全米ササニシキ復活プロジェクト栽培塾を対象とした買取販売の継続による農家手取りの最大化に努めます。



ササニシキ栽培塾での優良表彰

その②「農業生産の拡大」

環境保全米づくり運動の推進

- ・全作付面積 80%以上の作付推進
- 安全で環境にやさしく、美味しい米づくりに地域一体となったの取り組み、その価値を消費者にPRしながら売り切る米作りを目指します。



田んぼの生き物調査

生産拡大を目指す作物の作付奨励

- ・マーケットイン作物の作付誘導と契約栽培への取り組み
- きゅうり・きゃべつ等の重点作物の作付拡大と加工用じゃがいも・寒じめほうれん草等、マーケットイン作物の作付を推進しブランド化を目指します。
- 契約栽培米「萌えみのり」等の多収性品種の生産拡大に取り組みます。



サイボーグ009きゅうりの選果



加工用じゃがいもの播種



ちぢみほうれんそうのほ場

- ・輸出用米の取り組み

- コメの新市場開拓を図る輸出用米の作付を推進し、将来的な販路の確保と農家所得の増大に取り組みます。
- (平成30年産作付計画面積 188.9ha・計画数量 1,052 t)

生産基盤の拡充強化

- ・JA独自の支援対策事業の実施
- JA独自の畜産支援対策事業や園芸作物作付誘導支援事業等の継続により、生産基盤の維持・拡大を支援します。



繁殖牛増頭説明会

地域営農ビジョンづくり運動

- ・モデル地区設定による支援
- 地域営農ビジョンづくり運動の一環としてモデル地区を設定し、アンケート結果等に基づいた地域営農の仕組みづくりを支援します。
- ・アグリサービス事業の展開
- 労働力や機械力が不足している組合員を支援するため、モデル地区を設定し農作業支援事業(東和地区:平成30年9月から実施)と農作業の一部を斡旋する事業(米山地区:平成31年4月から実施)を開始します。

その③「地域の活性化」

JAくらしの活動の取り組み

- ・支店協同活動の展開
 - 支店を拠点として組合員・地域住民・役職員が一体となり活力ある地域づくりを目指します。
- ・登米コミュニティFMラジオ「H@!FM」を活用した情報発信
 - 「JAみやぎ登米インフォメーション」(レギュラーコーナー枠)による営農情報や各種イベント情報等を発信します。
(放送時間：毎週月曜日、午前7：42～5分間)



とよま支店セタイイベント

自己改革お知らせ活動の取り組み

- ・組合員訪問によるお知らせ活動
 - JA自己改革の取り組みについて、理解を深めて頂くとともにご意見を伺うために、役職員による組合員訪問(自己改革お知らせ活動)に取り組みます。
- ・広報誌(米にけ～しょん)による情報発信
 - 広報誌(米にけ～しょん)に自己改革の取り組み状況を掲載します。



広報誌
「米にけ～しょん」

介護事業の充実

- ・第3デイサービスセンターの新設
 - 組合員並びに地域の皆様の暮らしに貢献するため、JAとして3か所目となる第3デイサービスセンターをとよま支店前に建設します。
(平成31年2月オープン予定)



デイサービスセンターでのイベント

その④「健全経営の実践」

エリア管理体制と機動性の高い組織運営

- ・エリア管理体制導入による業務管理の効率化
 - 各部門の業務にエリア管理体制を導入し、管理業務の効率化を図ります。なお、平成31年度までは試行的期間として段階的に移行します。
※エリア→西部エリア(迫・南方)、南部エリア(登米・豊里・米山)、東部エリア(石越・中田・東和)
- ・支店営農経済センターによる指導購買
 - 営農経済センターの営農担当者があぐり店舗業務と兼務して各種情報提供と購買品供給を行い、多様な担い手(女性層・定年帰農者・中小規模農家等)への対応を図ります。
- ・本支店再構築
 - 貯金支店の将来的な有効活用の検討と本店事務所整備計画を検討します。